



C O N T E N T S

組合概要	2
これまでの取り組み	3
事業内容	4
バイオガソリンについて	
バイオガソリン(バイオETBE配合)とは	5
導入目標	6

組合概要

組 合 名 称	バイオマス燃料供給有限責任事業組合
代表職務執行者	内田 幸雄
事務局長	後藤 一郎
設立日	2007年1月26日
組合員(出資会社) (イロハ順)	出光興産株式会社 東燃ゼネラル石油株式会社 太陽石油株式会社 富士石油株式会社 コスモ石油株式会社 極東石油工業株式会社 昭和シェル石油株式会社 JX日鉱日石エネルギー株式会社
出資金額	4億円
事務所所在地	〒104-0028 東京都中央区八重洲2丁目7-12 ヒューリック京橋ビル9階 TEL:03-5299-0777 FAX:03-3231-0707
事業内容	1.バイオマス燃料 ^{※1} の輸入および国内調達業務 2.組合員に対するバイオマス燃料の販売および出荷業務 1、2の事業実施のため、バイオETBEおよびバイオエタノールの輸入・国内調達、受入れ基地の整備、組合員への輸送などに関し、具体的な準備を完了し、2010年度より本格展開を行なっております。 ※2

※1 バイオETBE、バイオエタノール

※2 バイオETBEの輸入は、2007年度より開始しております。



石油業界では、バイオETBEの導入目標を達成するべく、2007年4月より、主に関東圏においてバイオガソリン(バイオETBE配合)の試験販売(流通実証事業)[※]を行い、2010年度より本格導入を開始し販売地域を拡大しております。

この販売に合わせ、バイオマス燃料供給有限責任事業組合では、バイオETBEおよびその原料となるバイオエタノールを国内外より安定的かつ効率的に調達し、石油会社に供給しております。

※2007年、2008年の試験販売は、国の補助事業の一環として実施されてきました。

2006年度	
1月	2007年1月26日、バイオマス燃料供給有限責任事業組合(JBSL)設立
2007年度 バイオガソリン(バイオETBE配合)の試験販売開始 (関東圏50SS)	
4月	バイオETBE初輸入(フランスから新日本石油精製株式会社根岸製油所へ)
4月	関東圏50ヵ所のSSでバイオガソリン(バイオETBE配合)の試験販売(流通実証事業)を開始
2008年度 バイオガソリン(バイオETBE配合)の試験販売拡大 (大都市圏100SS)	
6月	東日本ETBE輸入一次基地(出光興産株式会社千葉製油所内)の寄託契約締結
7月	伯国大手バイオエタノール製造販売組合コベルスーカル(伯国:サンパウロ)と、甘利経済産業大臣と伯国のジョルジ開発商工大臣の立会いのもと、ブラジルにおいてバイオETBEの原料として使用するバイオエタノール年間約20万klの購入に関するMOUの締結
7月	飯野海運株式会社との間で、米国からのバイオETBEを輸送する外航タンカーについて、2010年より3年間の連続航海備船契約を締結
7月	米国ライオンデルケミカルカンパニーとの間で、バイオETBE調達事業の本格化に向けて、2010年度以降に調達するバイオETBEの長期購入契約を締結
8月	西日本ETBE輸入一次基地(和歌山石油精製株式会社海南工場内)の寄託契約締結
8月	日本郵船株式会社との間で、米国からのバイオETBEを輸送する外航タンカーについて、2010年より3年間の連続航海備船契約を締結
10月	伯国大手バイオエタノール製造販売組合コベルスーカル(本社:伯国・サンパウロ)と、バイオETBEの原料に使用するバイオエタノールの購入に関する長期契約を締結
3月	JBSLターミナル(輸入一次基地)から各社製油所へバイオETBEを輸送する為の内航船運送契約締結
2009年度 バイオETBE導入拡大 供給体制の確立	
6月	オエノンホールディングス株式会社及び北海道バイオエタノール株式会社の2社と、2009年度における国産バイオエタノールの購入に関する契約を締結
9月	新日本石油精製株式会社根岸製油所において、国産バイオエタノールの初受入
11月	JBSL和歌山ターミナル(和歌山石油精製株式会社海南工場内)開所 タンク容量:27,000kl
2月	外航専航船Megacore Honami(日本郵船株式会社運航)、現代尾浦造船(韓国:蔚山)にて竣工
2月	JBSL千葉ターミナル(出光興産株式会社千葉製油所内)開所 タンク容量:42,910kl
2010年度 本格導入(バイオETBE84万kl)の開始	
4月	新日本石油精製株式会社根岸製油所にて、輸入バイオエタノール初受入

※詳細につきましては、プレスリリース、最新情報も併せてご覧下さい。



事業内容

石油業界では、エネルギー資源の多様化、環境負荷の低減、循環型社会への転換等の社会的要請に貢献することを目的に、バイオETBEをガソリンに配合し、バイオガソリンとして流通させる研究に取り組んでまいりました。そして、2007年1月26日、バイオETBEおよびその原料となるバイオエタノールの安定的かつ効率的な調達のために、「バイオマス燃料供給有限責任事業組合(JBSL)」を設立し、着実に事業展開を行なっております。

事業フロー



バイオガソリン(バイオETBE配合)とは

● バイオETBEを配合したガソリン

バイオガソリンとは、バイオエタノールと石油系ガス(イソブテン)の合成により製造されるバイオETBEを配合したガソリンのことをいいます。

石油業界(石油連盟加盟各社)では、バイオマス燃料の導入にあたっては、大気環境に悪影響を及ぼさないこと、車の安全性や実用性能を損なわないことに鑑み、このバイオETBEを配合したガソリンの導入を進めております。

● バイオETBEとは

バイオETBEとは「エチル・ターシャリー・ブチル・エーテル」の略称で、バイオエタノールと石油系ガスであるイソブテンを合成して製造される物質です。

ETBEは水分や蒸気圧の管理が必要なエタノールよりも、ガソリンになじんだ性質を持っており、ガソリンに7%程度まで混合しても自動車の性能に影響がないことが確認されています。

※品質確保法では、ガソリンの含酸素率の上限値を1.3%(ETBE換算で約7%程度)以下としています。



サトウキビ畑

バイオマス燃料とは(カーボンニュートラルについて)

植物を原料とするバイオマス燃料を燃焼させた場合、二酸化炭素は当然発生するのですが、バイオマス燃料の原料となる植物が、その成長過程で光合成によって大気中の二酸化炭素を吸収しているため、燃焼によって発生する二酸化炭素は、排出量とはみなされません(カーボンニュートラル)。そのため、地球温暖化対策として、バイオマス燃料としてのバイオガソリンの利用が注目をあびています。

導入目標

「京都議定書目標達成計画」における バイオマス燃料供給の導入目標

石油業界では、政府の要請を受け、「京都議定書目標達成計画」(平成17年4月28日閣議決定)の実現のために、同計画に盛り込まれている“輸送用燃料におけるバイオマス由来燃料の利用”に関して積極的に取り組むことを決定し、試験販売を経て、2010年度以降においては、約36万kl(原油換算21万kl)のバイオエタノールを原料として生産されるバイオETBE約84万klをガソリンに配合し、販売地域を拡大していきます。

● 2010年度における目標値 (閣議決定)

